Quarterly Journal of Seismology

Vol. XXXIX

験震時報

第 39 巻

昭和49年

気　象　庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

1974

第39巻 総 目 次

第1号
田中康裕：伊豆大島三原山の御神火の発生機構について……1
天野　充：静岡県沿岸の津波……11
雑　報
朝倉克抓：摩擦値を求める式について……25
第2～3号
沢田可洋：地震の空間分布についての一調査—北海道地域……27
関谷　溥，久本壮一，望月英志，小林悦夫，栗原隆治，徳永規一，岸尾政弘：
1973年根室半島沖地震と北海道南方海域の巨大地震……33
市川政治，望月英志：1973年根室半島沖地震のメカニズムとそれに関連した
2，3の問題……41
吉留道哉：桜島周辺における地震記録の異常とマグマたまりとの関連について……49
山岸　登：最近2年間における NOAA に対する松代の地震資料の
重要度について……63
第4号
栗原幸一，宇津野忠，長宗留男：十勝岳における P 波初動方向の偏りについて……75
関谷　溥，徳永規一：遠州灘周辺の Seismicity Gap について……83
気象庁地震課・静岡地方気象台・石廊崎測候所：1974年伊豆半島沖
地震調査報告……89
雑　報
1973年著作目録……121

Vol. XXXIX

Contents

Y. Tanaka: The Mechanism of the "Gojinka"——One of the Volcanic
Phenomena of Mt. Mihara——in Izu-Oshima Island 1
M. Amano: Tsunamis of the Coast of Shizuoka Prefecture 11
K. Asakura: On the Formula which Calculates Friction Value 25
Y. Sawada: On Space Distribution of Earthquakes
— in Hokkaido District, Japan 27
H. Sekiya, S. Hisamoto, E. Mochizuki, E. Kobayashi, T. Kurihara
K. Tokunaga and M. Kishio: The off Nemuro Peninsula Earthquake
and the Large Earthquakes off Southern Part of Hokkaido 33
M. Ichikawa and E. Mochizuki: Mechanisms of the Earthquake of
June 17, 1973 and its Aftershocks 41
M. Yosidome: On the Relation between Peculiar Seismograms and the
Magma Reservoir in the Vicinity of Volcano Sakurajima 49
N. Yamagishi: Importance of Matsushiro Seismological Observatory
for Hypocenter Determination of NOAA During the
Last Two Years 63
K. Kurihara, T. Utsuno and T. Nagamune: Deviation of Directions
of Initial P Waves at Tokatidake, Hokkaibo, Japan 75

H. Sekiya and K. Tokunaga: On thb Seimicity Gap near Enshunada 83
Seismological Division, JMA, Shizuoza Local Meteorological Observatory and Irozaki Weather Station: Report on the Izu-Hanto-Oki Earthquake of May 9, 1974.....89
List of Contributions from J. M. A. on Earthquakes, Volcanoes and Tsunamis (1973)..... 121

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行なった気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し，原則として年4回刊行する．内容は論文・報文および雑報である．論文は新しい知見を含むもの．報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの．雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む．

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する．不備な原稿，次の投稿規定に沿わぬ原稿は返却することがある．

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない．また，他誌に掲載したものの続編形式にはしない．
2. 原稿の本文は和文とする．和文は原稿用紙に読みやすく書く．アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う．
3. 表題は和文と英文で書く．
4. 著者名は漢字とローマで略さずに書く．所属官署名は和文で書く．
5. 論文には英文アブストラクトを付ける．英文アブストラクトは別紙に書く．
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く．また，赤・黄等の紙や方眼紙，リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない．
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で，その他の場合和文で書く．図の表題・説明は別紙にまとめて書く．
8. 本文の末尾における参考文献は，原則として次の形式に従って列記する．

雑誌――著者名（年）：表題，雑誌名，巻数，号数(省略してもよい)，ページ～ページ．

単行本――著者名（年）：書名，第何版，発行所，総ページ pp. 数．または引用ページ．

（例）

久野　久（1958）：大島火山の地質と岩石，火山，第2集，3，大島特別号，1～16.

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942) : Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163～191.

竹内　均（1966）：地球物理学（坪井忠二編），第1報，岩波書店，67～71.

Jeffreys, H. (1959) : The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108～113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する．
10. 原稿送付先は気象庁地震課

原稿を作成するときは，次の投稿の手引きの各項の趣旨に沿うこと．また，原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する．

1. 本　文

1.1 編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う．

1.2 図表用のスペースを本文にあけておかない．

1.3 数式は2行取りに書き，数式の文書・記号をはっきりと説明する．

1.4 誤まりやすい英字・ギリシヤ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け，大文字・小文字の別を示す．添え字は判別出来るようはっきり書く．

1.5 暦年には原則として西暦を用いる．

1.6 人名の敬称は原則として省略する．

2. 表題・アブストラクト・はしがき

2.1 表題は具体的に内容をよく伝えるものであること．

2.2 英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き，次の諸点と留意する．㋑表題をそのまま使って第1行を書き始めない．㋺図・表・式・文献の番号を引用しない．㋩第三者の立場で書き，I や We を用いない．

2.3 はしがきには，本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く．

3. 図　表

3.1 図表の数は最小限にとどめる．

3.2 図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する．

3.3 図表中の文字・記号等をもれなく説明する．また，必要な単位は必ず付ける．

3.4 製版後．図の修正は不可能だから注意する．

3.5 原図の大きさは印刷時の2～3倍（線拡大率）くらいがよい．図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm，漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする．

昭和50年1月31日発行

編集兼発行人　気　象　庁
東京都千代田区大手町1ノ3－4

印　刷　所　大東印刷工芸株式会社
東京都中央区月島4丁目6－3号